

雪害

暴風雪による被害や除雪時の事故が年々増え続けています。未然に被害を防止するには、天気予報のチェック、外出を控えるなど、対応が必要です。

被害防止のための心得

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想される時は、外出を避けましょう。
- 停電に備えて懐中電灯、携帯ラジオの準備をしておきましょう。
- 外出できない場合に備えて、食料や飲料水などを確保（備蓄）しておきましょう。
- FF式暖房機の給排気口付近の除雪状況を確認しておきましょう。



車で外出する際の心得

- 吹雪や吹きだまりにより、車が立ち往生する可能性もあるので、防寒着、長靴、手袋、スコップ、牽引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認して出掛けましょう。また、万一来て、飲料水や非常食も用意しておくことで安心です。
- もし運転をしていて危険を感じたら、無理をせずに道の駅やコンビニエンスストアなどで天気の回復を待ちましょう。



万が一、動けなくなった場合は

- 大雪や吹きだまり等で車が立ち往生した時は、道路緊急ダイヤルやJAF等のロードサービス、近くの人家などに必ず救助を依頼してください。また、ハザードランプを点灯したり停止表示板を置くなど、車が目立つようにしてください。
 - 道路緊急ダイヤル（#9910）
 - JAFロードサービス（短縮ダイヤル #8139）
- 避難できる場所や救助を求められる人家がない場合は、消防や警察に連絡するとともに、車のマフラーが雪に埋まって排気ガスが車内に充満するおそれがありますので、マフラーが雪に埋まらないように定期的に除雪し、窓を少し開けて換気を行うなどして、車の中で救助に備えてください。
- 車を置いて避難する場合には、除雪や救助活動の妨げとならないよう、連絡先を書いたメモなどを車内に置き、車の鍵は付けたままにしておきましょう。



除雪時の心得 屋根の雪下しは特に危険！

- 作業は家族、となり近所にも声をかけ、2人以上で行いましょう！
- 晴れの日ほど屋根の雪がゆるんでスベリやすくなります。命綱やヘルメットを着用しましょう！
- はしごの固定はしっかりしましょう！
- 除雪機の雪詰まりは、エンジンを切ってから取り除きましょう！
- 作業のときは、携帯電話を持参しましょう！



地震

地震が発生したら、ケガや火災などの二次災害を起こさないことが身を守るポイント。いざという時の行動を家族と話し合うことも大切です。

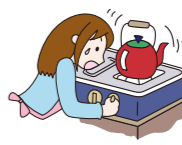
緊急地震速報の発令

緊急地震速報は震度5（弱）以上と推定される場合、テレビやラジオで流れます。速報が流れてから強い揺れが来るまではわずかな時間しかなく、震源に近い場所では速報が揺れに間に合わないことも想定されますが、まずは倒れやすい家具類から離れ、直ちにテーブルや机の下に潜るなど、危険を回避してください。周りの人に声を掛けながら、状況に応じ慌てずに、まず身の安全を確保することが重要です。

地震発生

最初の激しい揺れは約1分程度

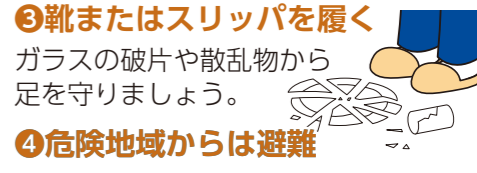
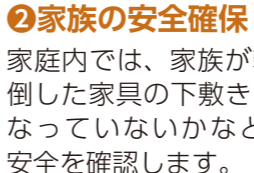
- ① まずは身を守る
クッションや座布団で頭を保護し、机やテーブルの下へ隠れましょう。
- ② すばやく火の始末
ガスやストーブの火を消し、電気機器のプラグは抜きましょう。
- ③ 非常脱出口の確保
玄関、窓を開けて避難路を確保しましょう。



1~2分

揺れがおさまったら自身と家族の安全確認

- ① 火元の確認
ガスの元栓を締め、ブレーカーを落とします。もし火が出ていたら、あわてずに初期消火を。
- ② 家族の安全確認
家庭内では、家族が転倒した家具の下敷きになっていないかなど、安全を確認します。
- ③ 靴またはスリッパを履く
ガラスの破片や散乱物から足を守りましょう。
- ④ 危険地域からは避難



3分

余震に注意しながら近隣への安全確認

- ① 隣近所への声かけ
けが人、行方不明者がいないか確認します。
- ② 負傷者への応急手当
周囲と協力して負傷者の応急手当をしましょう。
- ③ 火災時には初期消火
大声で知らせ、消火器、バケツリレーなど近隣で協力して初期消火を行います。



5分

正確な情報を収集し避難所へ

- ① 正しい情報把握を
災害発生時には様々な情報が流れてきます。ラジオ等で正確な情報を収集するほか、役場、消防、警察、自治会等で情報を確認するようにしましょう。
- ② 電話は緊急連絡を優先
安易に電話をかけることは避け、安否確認は「災害伝言ダイヤル」等を活用しましょう。
- ③ 危険を感じたら避難所へ
家屋倒壊などの危険があるときは、すぐに避難所へ。避難路については事前に確認し、安全な経路で避難所へ向かいましょう。



半日~3日

避難後は助け合い支え合いを忘れずに

- ① 協力して消火・救出・救護活動
- ② 飲料水・食料の確保
災害が大きくなればなるほど、公的な支援が届くまでの時間は長くなります。日頃から最低でも3日分の飲料水と食料の備蓄をしておきましょう。
- ③ 倒壊した家や危険性のある家には入らない
大きな地震が発生した場合、住宅等による二次災害を防止するため「建築物の応急危険度判定」を行う場合があります。この判定結果には『危険』『要注意』『調査済み』の3種類がありますが『危険』と判定された建物は立ち入り禁止となります。
- ④ 災害情報、被害情報の収集

